

芸術科「書道Ⅱ」シラバス	単位数	2	学科・学年	普通科 第2学年
	使用教科書	書道Ⅱ（書Ⅱ 305）東京書籍		

1 講座のねらい（目標）

- ・表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な諸活動をとおして書を愛好する心情を育てるとともに感性をさらに高めていく。
- ・書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。

2 授業形態

書道Ⅰを履修した生徒がさらに次の段階として履修するために設定されている科目である。したがって授業内容は書道Ⅰのそれを基本として深化、発展したものとなる。

「表現」の内容では「漢字の書」において新たに篆書、隸書、草書また篆刻などその範囲も広がり、用筆・運筆および字形や全体の構成など多様な表現技法を習得する。感興や意図に応じた表現効果をあげるため、習得した技法や表現形式などをどのように活用していくかについて学習していく。

「鑑賞」においては古典や作品のさまざまな書美の第一印象による直感的把握をもとに、時代や風土といった背景にたいする知的理解を含め、書美を構成する諸要素とその表現効果について分析的に把握することで鑑賞を深めていく。

3 評価方法

- ①提出作品…漢字仮名交じりの書においては意図した表現に近づくことが出来たか、漢字の書・仮名の書（臨書）においては対象となる古典の特徴を表現出来たかが評価の基準になる。
- ②学習記録ノート…自分の制作過程や感想文、自己評価などの充実。
- ③学習活動への参加状況…用具用材の扱い（準備や片付け）、学習態度、意見発表等。
- ④定期考査

4 評価の観点、評価規準

A 表現

書への関心・意欲・態度	書を愛好し、古典の学習をとおして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習をとおして、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。	・学習活動への参加状況
		・「学習記録」の記入状況
		・作品ファイル
書表現の構想と工夫	感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習をとおして個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。	・提出作品
		・「学習記録」の記入状況
創造的な書表現の技術	漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。	・提出作品 ・作品ファイル
		・「学習記録」の記入状況
鑑賞の能力	古典の学習をとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書的美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを味わっているか。	・定期考査
		・「学習記録」の記入状況

B 鑑賞

書への関心・意欲・態度	書を愛好し、古典の学習をとおして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。	・学習活動への参加状況
		・「学習記録」の記入状況
		・作品ファイル
鑑賞の能力	古典の学習をとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書的美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを味わっているか。	・提出作品
		・「学習記録」の記入状況

5 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考	70時間 配当 時数
一学期	一 篆書の学習 1 さまざまな篆書 2 篆書(小篆)の特徴 3 金文(召尊)の鑑賞と臨書 4 篆書による創作と作品の鑑賞	4	篆書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置付けを理解します。		1
		5	泰山刻石の鑑賞と臨書をとおして、篆書(小篆)の特徴を理解し、基本的な用筆・運筆、結構を習得します。		2
	二 篆刻・刻字の学習 ■篆刻の学習	6	召尊の鑑賞と臨書をとおして、金文の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。		2
	三 隷書の学習 1 さまざまな隷書	7	書表現の一分野としての篆刻の意義を理解します。作品に対する効果を考え、姓名印を刻り、押印します。		10
			隷書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置付けを理解します。		1
二学期	2 乙瑛碑の鑑賞と臨書 3 漢代木簡の鑑賞と臨書 4 隷書による創作と作品の鑑賞	8	乙瑛碑の鑑賞と臨書をとおして隷書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解します。漢代木簡の鑑賞と臨書をとおして木簡の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。これまで学習した古典の表現を生かして隷書の作品を創作します。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。	2 2 2
	四 草書の学習 1 草書の成立 2 草書の特徴 3 草書の名跡の鑑賞と臨書	9	草書の成立と歴史的な位置付けを理解し、基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握します。書譜、十七帖の鑑賞と臨書をとおして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、草書による表現の多様性を理解します。	書道Ⅰでの学習の発展です。	1 1 4
	五 行書の学習 1 さまざまな行書 2 集王聖教序の鑑賞と臨書 3 重厚と軽快 ■草書・行書による創作と作品の鑑賞	10	書道Ⅰの学習を基に、行書に対する興味・関心を深め歴史的な位置付けを理解します。さまざまな行書の書風を鑑賞し、行書の表現の多様性を理解します。集王聖教序・祭姪稿・枯樹賦の臨書をとおしてその表現方法を習得します。草書または行書の表現を生かし、自ら題材を選んで創作を行います。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します	1 2 6 7
	六 楷書の学習 1 均斉と均衡 2 頸直と重厚 3 温雅と雄健な小楷 4 楷書による創作と作品の鑑賞	11	書道Ⅰにおける学習をもとに楷書の多様な表現にふれ、自らの個性を生かす古典を選択して学習を深めます。学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。		2 2 2 2
	七 仮名の書の学習 1 仮名の種類 2 仮名の書の特徴 3 高野切第一種の鑑賞と臨書 4 高野切第一種の臨書と短冊の書式 5 三色紙の鑑賞と散らし書きの学習 6 小字による表現 7 大字による表現と作品の鑑賞	12	書道Ⅰの学習をもとに仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深めます。仮名の書の臨書(主として高野切第一種)や鑑賞をとおして表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深めます。	書道Ⅰでの学習の発展です。	1 1 2 2
	八 漢字仮名交じりの書の学習 1 さまざまな表現 2 古名跡に学ぶ表現の工夫 3 創作/さまざまな表現の工夫 4 漢字仮名交じりの書の鑑賞 5 生活に生きる書	1	2学期の学習を基に仮名の書による創作を、題材や形式を選択して行います。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。	1 1
		2	これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。	書道Ⅰ・Ⅱの学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。	1 1 2
		3	生活に生きるさまざまな書にふれ、これまでの学習を今後どのように生かしていくかを考えます。	生涯にわたり書を愛好する心情を身に付けます。	1 1
					2

6 補足

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none">・書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。・技法の習得にあたってはただ練習の枚数を重ねるのではなく自分が解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。そのために「学習記録」はていねいに書きましょう。・創作においては感興に応じた表現を効果的に行うため、形式や詩文、用具・用材などを積極的に選択していきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none">・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。